

九州栄養福祉大学・専門学校九州リハビリテーション大学校統合について

少子高齢社会の到来、環境汚染と食の安全、生活習慣病の蔓延、
予防リハビリテーションの重要性とリハビリテーション概念そのものの大きな変容、
医療費の増大など、このような様々な21世紀の人間福祉の課題に対応するため
九州栄養福祉大学と専門学校九州リハビリテーション大学校は統合しました。

九州栄養福祉大学は食を通して福祉を実現しようという教育理念を持った管理栄養士養成専門大学として平成13年に開学しました。人間の健康で幸福な生活、すなわち福祉を実現する上で最も根源的なものが「食」であり、その「食」を守ることが人間生活の基盤であり社会や国家の礎であるという認識に立ち、その礎となる「食医」「食の番人」的役割を果たす管理栄養士養成を開学以来目指してきました。管理栄養士の国家試験においても第一期生から十二期生まで福岡県内では常に第一位の合格率を上げてきました。九州全体でもほとんどトップの成績を示してきました。

そういう中、北九州市や地元医師会などからの要請を受け平成16年には我が国で2番目に古い歴史を持つ両科（理学療法・作業療法）併設の「労働福祉事業団・九州リハビリテーション大学校」を継承し専門学校九州リハビリテーション大学校を開学しました。この大学校や九州労災病院のある足立山は、その昔平安の都づくりをした和氣清麻呂公が足を治したという歴史的伝説の地であり、国の「小倉傷痍者訓練所」や日本で初めての基幹病院としての九州労災病院も設立されてきたリハビリの発祥地であります。この地から斯界にはたくさんの人材が巣立っています。おかげ様で今年リハビリテーション学部は開学3年目に、両学科とも国家試験が100%合格を達成しました。

本学は到来しつつある少子高齢社会の様々な人間福祉の課題に対応するため、この大学校を九州栄養福祉大学と統合しリハビリテーション学部として位置づけこれまでの「食」にリハビリを加えてより一層人々の健康生活を守る人材養成に取り組みたいと思い、平成23年からは新たな旅立ちとなりました。尚、伝統の九州リハビリテーション大学校名は『日本リハビリテーション発祥地記念館・九州リハビリテーション大学校記念館』としてその名を残すことになりました。

「食」や予防リハビリを含めた「リハビリ」を通して人々を病気や障害、怪我から未然に守り増大する医療費を抑制することは国家社会全体の重要な課題です。目指すは「食とリハビリ」をグローバルな視点で連動的に捉え、直面する課題に応える科学的思考と使命感を持った人材育成です。管理栄養士、理学療法士、作業療法士の専門領域を踏まえた「健康生活の番人」たる医療人が大切なのです。彼らはいずれ人々の健康で幸福な生活を守る礎となっていくでしょう。我々は到来しつつある前例のない少子高齢社会という社会構造のより強固な人間福祉の礎を築くべく「食とリハビリ」の連携を図り教育の相乗効果の発現を願うものです。